

第5回 桐生市総合戦略推進委員会 議事録

1. 日 時 平成28年1月13日(水) 午後6時30分～午後7時35分まで

2. 場 所 桐生市役所 6階 605会議室

3. 出席者

【委員】	委員長：	桐生市総合計画審議会会長職経験者	宝田 恭之
	副委員長：	桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
	委 員：	桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
		新田みどり農業協同組合 副組合長	藤生 英喜
		桐生広域森林組合 総括課長	栗原 和人
		桐生織物協同組合 共販部係長	品川 悦子
		群馬県桐生みどり振興局 局長	飯島 泉
		群馬大学理工学部 教授	板橋 英之
		桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事	北風 久子
		桐生信用金庫 常務理事	横倉 浩治
		足利銀行 桐生支店長	松村 貢
		群馬銀行 桐生支店長	横山 勝則
		桐生公共職業安定所 所長	橋本 真実
		桐生タイムス 事業推進室長	小澤 義明
		桐生市区長連絡協議会 第3区長	茂木 新司
		桐生市社会福祉協議会 常務理事	高松 富雄
		きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
		桐生市婦人団体連絡協議会 会員	田中 洋子
		2015年の公共交通をつくる会 会長	佐羽 宏之
(欠席者)		NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
		桐生市PTA連絡協議会 副会長	長 由紀子
		桐生市医師会 理事	太田 裕穂
		桐生青年会議所 理事長	朝倉 康行
		桐生市環境審議会 会長	赤岩 英夫

【桐生市】	桐生市長	亀山 豊文
	桐生市副市長	鳥井 英雄
(事務局)	桐生市総合政策部企画課長	和佐田 直樹
	桐生市総合政策部企画課人口対策室長	六本木 和敏
	桐生市総合政策部企画課人口対策室主任	竹ヶ原 大輔

【傍聴者】 0名

【報道機関】 2社

4. 議 題

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) (仮称) 桐生市「人口ビジョン」・「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(案) について

4 その他

5 閉会

5. 議事の概要

(開始：午後6時30分)

1 開会

〈和佐田企画課長〉

本日は、3名の委員より欠席の御連絡を、1名の委員より遅れる旨の御連絡をいただいているが、現時点で本日の出席委員数は過半数に達していることから、委員会が成立していることを報告する。また、市長については他の公務と重なっており、少し遅れてくる予定であるので御了解いただきたい。

2 あいさつ

〈委員長〉

12月まで皆様の御意見を元にいろんな議論をさせていただいた。これまでの議論の中で、人を呼び込むためには、「住むところと教育が充実していないと人は来ない」という意見や、「桐生の良さを使うとここで起業できるのではないかと思える」という意見が印象に残った。ここで仕事を作るための施策も重要である。

今回国から依頼されているのは、人を増やす、仕事を増やすという好循環が大前提にあるが、それを目標にしながら桐生の活性化をそこにうまく乗せていくことが、今回の総合戦略だと思う。12月の会議で、最終案という形で事務局に資料を出してもらい、一般の策と重点施策を区分けした。そして、12月の推進委員会で皆様から御指摘をいただき、またキーワードに関してもさらに整理し、重点施策を見直した。ざっと数えて80ある施策・事業に対し、重点施策は10分の1に絞ろうと、年末年始にかけて、資料を見やすく整え重点施策をスリム化した。桐生の特色を活かして、これからの活性化のため、人と仕事が増えるような施策にしようということでもとめてみた。本来12月に最終案としてまとめるはずだったが、今一度見直したものを本日披露することになった。今まで指摘されたところが、どう反映されているのか見ていただきたい。

また、作っただけでは意味がないので、この案をどう実行していくか、行政と一緒にやっていきたいと思う。今までさまざまな戦略や案に携わってきたが、どんな案を作っても100%というものはない。いいところを出そうとすると必ずその反面が出てくるが、悪いところを見ていると何も動かない。桐生のいいところを使って、この案も100%ではないかもしれないが、やれるところをやっていくこと

で突破口を開いていきたい。ある程度それに沿った案ができたのではないかと思っている。今日はこの案を皆様にお認めいただき、この案を実行するために、皆様に御協力いただきたいと思います。

3 議題

委員長が議事を進行。

(1) (仮称) 桐生市「人口ビジョン」・「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(案) について

〈事務局説明〉

事務局より、資料1「(仮称) 桐生市人口ビジョン (案)」及び、資料2「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (案)」について説明。

(市長入室)

〈委員長〉

補足として、基本目標1~4の順番で書類を作ることとした。7、8ページの重点施策は、施策の優先順位ではなく、フォーマットに基づくものであることを御理解いただきたい。

これをまとめるにあたって、9ページから約80の細かい施策・事業が表になって、単に羅列しているように見えるが、これらは全部関連している。時期的にも関連していて、これをやらないと次のこちらができないというような関連があるので、この案が煮詰まった段階で、施策・事業の連関図を出してもらうよう事務局にお願いした。それはロードマップのようにスケジュールがあり、この約80の施策・事業が位置付けられ、進行状態がわかるようなものを作ってくださいとお願いしてある。大変な作業なのですぐにはできないが、確定後、実行案を練るまでにやっていただけることになっている。それがないと、この約80の並べた施策・事業をどこからやっていくかよくわからないので、その後の段階として、まとめていただくことになっている。

もうひとつ、重要な7、8ページの重点施策だが、ここでは最初の基本目標のところで副委員長からコメントをいただいたが、「桐生にいれば新しい創業ができる」という魅力を出した。空き家・空き店舗対策にもなり、若い人が自分で仕事ができる。しかもその仕事をするための原資となるような技術を、伝統的にも文化的にも桐生はたくさん持っている。桐生を創業のまちのような形にし、今回はこれを少し強めに押し出すようにした。

森林資源は重要な施策で、少しずつ動き出していることもあり、これは絶対外せない。なんとか雇用創出につなげていきたいというのが、基本目標1のふたつである。

そういった意味合いから基本目標2の「空き家の利活用」、これも最初の創業支援とリンクしているが、もう少し幅広く行おうとしている。それから「観光振興」は、ここの情報が正しく発信されていないのではないか。もう少し戦略的にやる必要がある。こういったものを含めて、ここの資源を強化して交流人口の増加につなげたい。

基本目標3「若年代が魅力を感じる子育て支援策の展開」では教育システム、子育て中のお母さん方が安心してここで子どもを育てられるための「子育てサポートの体制」、そして新しい教育システムを導入する。多くの教育組織が集まっているところなので、それを生かした形で人を呼び込みたい。

基本目標4、これは大変重要で、皆様から常に御指摘のある中心市街地の再生である。コンパクトシティを意識した形で再生していったらどうか、というのが今回の提案である。桐生地区、新里地区、黒

保根地区、それぞれに中心市街地があるので、まずそこに楔を打って人を集める。それと関連して「環境先進都市」の実現。これは9ページ以降に詳しく書かれているが、環境先進都市を目指した形で桐生が活性化しつつ、人や仕事が増えるような方向性を見出していけるのではないかと考えている。今後具体的な案は出てくると思うが、副委員長とわたらせ渓谷鉄道に燃料電池車両を走らせるといったようなことができたら、非常に面白いのではないかと夢のような話をした。それも環境先進都市の中に入るだろうし、環境先進都市の中では自転車等の活用が言われているが、これも上毛電鉄が自転車乗車を行っていることと関連し、さらに桐生のまちの中に自転車が走れるような環境を作れないか。そうすると、路地は車が高速で走っているため危ない。通常、ゾーン30というものがあるが、桐生の路地はゾーン20にしたらどうか。電動バスMAYUの速度も19キロなので、そうすれば十分走れると思う。これはまだ全然具体案ではないが、この重点施策を絞り込む段階で事務局や副委員長と議論を重ね、今回こういった形にまとめさせていただいた。皆さんの御意見も伺いたい。

〈委員〉

今までの会議の内容が反映されていて非常に良くできているが、追加していただきたい部分がある。基本目標4に入るかと思うが、当市における空き家・空き地対策、空き家バンクは人口減少対策だと思われる。去年施行された空き家・空き地対策特別措置法を踏まえ、倒壊の恐れや、景観、衛生に問題のあるものへの対策も、どこかに入れることが必要ではないか。それが中心市街地の再生に必要なことになる。前橋市が県内で初めて空き家対策計画を定めたと聞いたが、今後桐生市もこのような計画を策定し、取り組んでいく文言を入れられたらどうか。

〈委員長〉

空き家対策に関しては、基本目標1で中心市街地の空き店舗の活用、基本目標2でも空き家の利活用等による移住定住促進に盛り込んでいるが、空き家の保全といったものも、この中に一緒に盛り込んでいただきたいということと思われる。その部分は一緒に入れられるのではないか。

〈鳥井副市長〉

危険で手の施しようのない空き家、法律用語でいうと特定空き家について、どんな条件のものを特定空き家とするのか、桐生でもガイドラインを含め今後定めていかなければならない。特定空き家として認定することができれば、所有者が不明であったり、あるいはどうしても所有者が取り壊しに応じていただけない場合に代執行するなど、いろんな形で空き家の除却をし、空き家があったことで地域の再生が図れなかったところの再生が進むという道筋がつくようになる。法律にもとづき順次そういうことを進めてこうということに規定路線としてなっており、第一段階として空き家調査をこれから行うという段階にある。

その後は財源が必要になってくるので県、国の財政支援を受けながら対策を講じていく。桐生の場合には、一説には空き家が1万軒くらいあると言われており、他の自治体より空き家率が非常に高いということもあるので、順次対策を講じていこうと思っている。今委員からお話いただいたことに関しては、中心市街地の再生の一つの手法として進めていくものであり、立地適正化計画を策定し推進していくことで、コンパクトシティの実現、それを解決していくための一つの策として念頭に置いている。いろいろなところにかかる部分があるので、あえて個別具体的な施策の推進に関しては、ここでは記述をさせ

ていただかなかったというのが現状である。

〈亀山市長〉

昨年4月から空き家対策室を設けて、その部分は桐生としても積極的に進めているが、地方創生の部分では空き家・空き地をどう活用していくのかを重点的に見ている以上、今委員から出たお話は少し後の話になると思う。

〈委員長〉

いづれにしても、商業促進、中心市街地の活性化、環境先進都市の推進のためには、桐生の場合は空き家・空き店舗の調査、活用が必要になってくる。

〈委員〉

景観条例も始まっていると思う。景観上の問題も含めて、御検討いただければと思う。

〈鳥井副市長〉

景観計画というものも策定中であり、今後法律や条例にもとづき桐生市の景観を地域ごとに維持していくために、特定空き家を排除しないと好ましい景観が生まれにくいようなこともあるので、そういうことを念頭に、景観上にも支障が生じるようなものに関しては、積極的に改修してくようなことを今後考えていきたいと思っている。

〈委員〉

21 ページ「(3) 地域間連携に向けた取組」で、前回東武鉄道を首都圏とつなぐだけでなく、両毛地域をネットワークするイメージが入るようにしたらどうかという話をしたが、もう少し具体的に近隣地域とのインターシティ的な役割を強調してもいいのではないか。ここがもう少し具体的に書かれるといい。首都圏等の「等」とは何なのか良くわからない。

太田市ではマイカーがないと駅まで行けない、ということを実証した番組がこの前放送されていたが、桐生は駅を中心として具体的に書いてあるのでとてもいいと思う。市民が市のどこからでも市の真ん中に行けるような仕組みだと思う。「等」のところはもう少し具体的にした方がいい。

〈委員〉

桐生市は東武鉄道と縁が深い。地域間連携の場合は、桐生と合併した新里、黒保根との往来を、既存の路線を使い今まで以上に利便性を高めることが大事だと思う。

〈委員〉

基本目標4の中心市街地の再生とコンパクトシティの推進について、何年後かわからないが、例えば合併が進んだ場合、今のままの市街地の再生が可能なかどうか。うわさではあるが、市庁舎が別の場所に移ってしまったり、名前が変わったりすると、中心街の再生は時間が経ったときどうなるのかという懸念がある。

〈鳥井副市長〉

このことに関しては、確定的なお話は今の段階ではできない。例えば合併が進んだとき、桐生地区、みどり地区のどちらからも行きやすい場所に本庁舎を移転することは検討に値する事項だと思う。しかし庁舎が移転することがあったとしても、中心市街地というのはすでに膨大な経費を投じてインフラ整備が済んでいる地域である。インフラを活かすことを前提に考えれば、庁舎が移転しても、一番住むのに便利な地域、あるいは買い物に行くのに便利な地域、そういった地域としての形は間違いなく残ることになり、心配は要らないと思われる。駅があり、下水道が整備されインフラは整っている。医療機関もあり、本当に便利なものが揃っているのが中心市街地周辺である。

鉄道を基軸とした地域間連携の推進と沿線の活性化については、具体的な手直しが必要か。例えば、「首都圏等」を「首都圏と近隣他都市」のような言い方に修正すればよろしいのか。御議論いただきたい。

〈委員長〉

「首都圏と近隣他都市」という表現がわかりやすくいいと思う。中心市街地の再生は、街の中心とされるべき場所に人が集まらなければ、コンパクトシティの実現は不可能だろう。桐生地区だけでなく、新里地区、黒保根地区にも中心市街地がある。そういう理念で、仮にみどり市と一緒になっても、そこに中心地はある。市庁舎がどうなっても、人が集まるようなコンパクトな中心地を目指さなければならないと思う。

日本には今まで、ヨーロッパのような人が集まる広場がなく、そういうことを目指したまちづくりはなかった。桐生がはじめてそれをやるなら非常に面白いと思う。ヨーロッパでは広場にはいつも人が集まっているが、集まってくるということが日本の次のまちづくりに繋がるのではないだろうか。日本の場合はいつも家の中に引っ込んで生活している。人が少なくなっていくだけに、中心地に人が集まっていくような環境を求められると思う。本町5丁目付近に人が集まれるような環境ができれば、これは非常に面白いし、そうすると新里、黒保根、また大間々にも必要になってくる。未来型コンパクトシティを目指し、人間のライフスタイルまで変えるようなことが桐生からできれば、非常に魅力的な施策になるのではないか。御心配もあるのでしょうか、そういった形でやっていけば魅力あるまちになるのではないかと思う。

〈委員〉

7ページのキーワードの部分で、一億総活躍社会ということがあるので、一番下にある「市民をはじめオール桐生で」という言葉が一番上にあるほうが、市民と一緒にやっている取組というのが強く感じられるのではないか。検討いただきたい。

〈委員長〉

キーワードの部分では、委員全員が歴史、伝統、文化をアピールしたいという思いが強いので、どうしてもこれが一番上になってしまう。そうすると、「オール桐生」を二番目にするのもおかしいので、一番下になる。

〈亀山市長〉

最初か最後かなと思う。ここは締めで「オール桐生」という形にして、頑張っていこうというのが出たほうがいいのかと思う。

〈委員〉

KPI の設定値の妥当性はどうか。一例として、16 ページ「市が支援する婚活イベントにおけるカップル成立数」の目標値を毎年 20 組としているが、これは具体的にどうか。その下の項目の「子育て世代の負担軽減」では、重点施策として奨学金制度の整備がある。これが金額なのか人数なのかかわからないが、そういう数字をむしろ入れるのがいいのではないか。設定値の妥当性がどうかと思うところがある。

〈事務局〉

目標値については非常に難しく、事務局でも苦労したところであり、他の自治体の総合戦略も拝見したが、全ての項目を網羅した目標値を設けるのは難しい。したがって、ここに出ている施策事業の中から代表的なものをピックアップし、目標については 26 年度基準値を踏まえて、5 年後の目標値ということで設定している。

〈鳥井副市長〉

今御指摘いただいた婚活イベントのカップル成立数で言うと、26 年度の実績で 20 組となっているが、今後の人口減少に伴い結婚適齢期の人口も減少していくことを想定すると、数字は同じでも現状のカップル数を維持するのも難しくなる。成立する率で考えると、頑張っていかないと維持できない目標となっているので、御理解いただけるとありがたい。

また「新たな奨学金制度」に関しては、まだ中身は出来上がっていないが、地域内への定住を目指した取組となっている。奨学金を利用して首都圏等の大学へ行った方が、卒業後地域に戻ってくることによって、率はともかくとして、半額は免除になるといったようなかたちで補助するなど、そのような取組として御理解いただきたい。

〈委員〉

新たな奨学金制度について、具体的な内容はこれから考えることになるのか。

〈委員長〉

群馬大学理工学部を対象とした新たな奨学金を作るという案も出てきている。具体的な内容は、これから考えることになる。

これを作っただけでなく、どう動かしていくかがこれから重要になってくる。今日お集まりの皆様には、今後とも御協力いただきたい。

〈委員〉

非常にオリジナリティと夢のある計画ができたのではないかと考えている。見やすく整っており、いろんな意見がうまく消化された、わかりやすく夢のある内容だと思う。

〈委員長〉

それではいかがでしょう。この案を御承認いただけますか。

【委員承認】

〈委員長〉

これで委員会の議事はすべて終了となる。亀山市長より一言お願いしたい。

〈亀山市長〉

委員の皆様には、昨年8月から約半年間にわたり活発な御意見をいただき、大変感謝申し上げます。今回で5回目の委員会となるが、こうして最終案にたどり着き、皆様に御承認いただき、大変うれしく思っている。

総合戦略の最終案については、人口ビジョンで示した目指すべき将来の方向、皆様からいただいた御意見・御提言等を踏まえ、桐生独自のまちづくりに向けた重要な視点を設けるとともに、それぞれの基本目標ごとに重点施策を示している。基本目標1であれば、産業活力の強化と雇用環境の再整備。基本目標2では、移住・定住の促進と交流人口の増加策の推進。基本目標3だと、若年世代が魅力を感じる子育て支援策の展開。基本目標4では、持続可能で将来にわたり住みやすいまちづくり。

パブリックコメント等の所定の手続きはあるが、今後はこの総合戦略策定の段階から、推進の段階へ移行することになる。策定をもって終了するわけではなく、これからが本当の意味での「地方創生」のスタートであると考えている。重要な視点にも掲げているが、人口減少の克服、地方創生を成就するためには、こちらにいらっしゃる委員の皆様、市民や産官学金労言など「オール桐生」で取り組んでいくことが不可欠だと思っている。皆様方には、これからもいろいろな形でお力添えを賜り、この総合戦略が実りある総合戦略として、これからの桐生のまちに作って良かったとなるように実行していきたい。皆様には変わらぬ御支援を賜るようお願い申し上げ、御礼のあいさつにしたい。

〈委員長〉

総合戦略案が「オール桐生」でできていることは非常に重要である。委員の皆様の中には、御自分の意見が反映されなかったという方もいらっしゃるかと思われるが、こういった戦略を市民レベルで構築していくことはあまりないのではないかと。大体役所が作って終わってしまうところが多い中、皆様の御意見を事務局の方々も受け入れていただいて、大変な御苦勞をおかけしたが、一体化してやれたことは良かったと思う。今回でこの会議はいったん終了するが、先ほどの市長のお話の通り、これを実行・推進していくことが重要になるので、お願い申し上げます。それではこれで議長の任を解かせていただく。本当に御協力ありがとうございました。

4 その他

〈委員〉

この総合戦略をいかに推進するかということで、またこのように各分野の方々に集まっていたりいただかなくても、教育や子育てなど、それぞれの専門分野にわかれた諮問委員会的なものを組織していただけたら、より具体的な実行に結びつくのではないかと思います。御検討いただきたい。

〈事務局〉

今後の予定について事務局から報告する。本日決定した最終案については、パブリックコメントを行う。実施期間は、1月末から約1か月間を予定している。その後、市の最高協議機関である庁議を経て、「人口ビジョン」「総合戦略」を正式決定し、3月公表と考えている。なお、パブリックコメントの意見の取扱いについては、事務局でとりまとめを行い、結果については推進委員の皆様には3月下旬に御報告させていただきたいと考えている。また、来年度については総合戦略策定の段階から、推進の段階に移っていく。PDCAサイクルによる施策の効果検証等を行っていくので、引き続き皆様には御協力をお願いしたい。

5 閉会

〈和佐田企画課長〉

(終了：午後7時35分)